

平成30年8月6日

草津市議会

議長 瀬川 裕海 様

草津市議会会派 草政会

会長 棚橋 幸男

会派行政視察結果について、下記のとおり報告書を提出いたします。

記

1. 期 間 平成30年7月18日（水） ～ 平成30年7月20日（金）

2. 日 程

7月18日（水） ■ 研修（厚生労働省／総務省） 午後2時～4時

○今後の地域共生社会の展望について

○自治体の財務書類の活用について

7月19日（木） ■ 千葉県木更津市役所 午後1時30分～3時

○PFI導入の給食センター整備および運営について

7月20日（金） ■ 東京都世田谷区役所 午前9時30分～11時

○子ども・若者支援について（世田谷若者総合支援センター見学）

3. 参加者 草政会 棚橋 幸男 木村 辰巳 中村 孝蔵 中嶋 昭雄
西田 剛 山元 宏和 横江 政則 中島 美徳
遠藤 覚 永井 信雄 瀬川 裕海 奥村 次一
小野 元嗣

4. 添付資料 別紙のとおり

会派研修報告書

(厚生労働省／総務省)

報告者：草津市議会会派 草政会
中島 美徳

I. 会派研修の概要

1. 日 時 平成30年7月18日（水）午後2時00分～午後4時00分
2. 研修場所 衆議院第一議員会館 第3会議室
3. 参加者 棚橋 幸男、木村 辰巳、西田 剛、中村 孝蔵、奥村 次一、
中嶋 昭雄、瀬川 裕海、小野 元嗣 山元 宏和、永井 信雄、
横江 政則、遠藤 覚、中島 美徳

II. 研修の内容

●「今後の共生社会の展望について」

講師：厚生労働省情報化担当参事官室 室長補佐 中園 和貴氏

少子高齢化が顕著に現れている現在、社会保障制度改革からの流れにより、“我が事・丸ごと”の「地域共生社会」に至った経緯や今後の展望などを、わかりやすく資料にまとめていただき、さらに先進事例も交えてご講演いただきました。

（詳細は資料のとおり）

●「自治体の財務書類の活用について」

講師：総務省自治財務局財務調査課 課長補佐 大宅 千明氏

地方公会計の整備や活用について、わかりやすい資料で詳しくご講演いただきました。中でも、実際の活用事例では、本市においても参考にするとところが多く、とても有意義な研修となりました。（詳細は資料のとおり）

III. 研修を終えて（所感）

今回の研修では、武村展英衆議院議員を通じて講師をお願いしました。内容については、武村衆議院議員と草津市の現状についてよく協議を重ね、両講師によりよく伝えていただいた事で、草津市の現状をよく把握いただき、草津市の課題と思われるところに焦点を絞った内容の講演をしていただきました。

そのことにより、全員がより良く理解する事ができ質疑応答では、多数の質問が出ました。また、武村衆議院議員からも事例紹介をいただき、研修内容をより深く理解する事ができました。今回の研修により、草津市の将来展望を考えていく上で重要となることについて、正しい方向性を示していける第一歩となると確信いたしました。



行政視察報告書

『PFI 導入の給食センター整備および運営について』

報告者：草津市議会会派 草政会
遠藤 覚

I 視察の概要

- 1 視察日時 : 平成 30 年 7 月 19 日(木) 13:30~15:00
- 2 視 察 先 : 千葉県木更津市 市役所駅前庁舎
- 3 担 当 者 : 木更津市 木更津市教育委員会教育部長 岩壘 伸二様 他
- 4 視察項目 : 『PFI 導入の給食センター整備および運営について』
- 5 視 察 目 的 :
木更津市では、公共サービスの提供にあたって、多様な主体の特性や民間活力を生かしたPPPの導入を早くから進めており、平成21年4月から学校給食センターにPFI方式を導入・稼働させ、中学校給食の完全実施と安全で質の高い給食の提供を継続的に行われている。草津市では、現在中学校給食実施のため、「草津市中学校給食実施基本計画」に基づく取り組みを進めており、木更津市における給食センターのPFI事業の取り組みや効果等については、本市にとって大いに参考になるものとする。
- 6 参 加 者 : 棚橋幸男 木村辰巳 中村孝蔵 瀬川裕海 奥村次一
西田剛 中嶋昭雄 小野元嗣 永井信雄 山元宏和
横江政則 中島美徳 遠藤覚



II 視察の内容

1 木更津市学校給食センターについて

木更津市において初めてのPFI事業として平成21年4月に稼働。

- ・施設名 木更津市学校給食センター
- ・事業概要 木更津教育サービスPFI株式会社
(株)奥村組 (株)中西製作所 一富士フードサービス(株)
(株)太平エンジニアリングによる設立された会社が実施
供給食数 1日最大6,000食
6小学校 4中学に配送 (市内19小学校 13中学校のうち)
(センター方式と自校式の併用)

現在5,600食/日を提供

- ・事業経過 契約締結 平成19年12月
着工 平成20年6月
竣工 平成21年3月
事業期間 平成21年度から15年間

※詳細は添付資料を参照



2 PFI方式による整備事業導入経緯について

木更津市学校給食センターのPFI方式導入経緯については、老朽化し耐震性の確保できていない小学校（木更津第一小学校）の早急な整備が求められている事と併せて、市民から中学校の学校給食提供の実施についての強い要望があった事から、小学校の校舎改築事業と一体的に木更津市学校給食センター施設整備を一括してPFI方式を導入しての整備が行われた。木更津市では平成18年から「木更津市PPP(官民連携手法)導入指針」を定めておられ、指針に従いPPP方式での整備を検討し、二つの事業を一体的にPFI方式により事業を行うこととなった。

3 PFI方式での事業実施内容について

(株)奥村組 (株)中西製作所 一富士フードサービス(株)

(株)太平エンジニアリングによる設立された会社『木更津教育サービスPFI株式会社』が行っている。学校給食センターについては、当該PFI会社と教育委員会・学校等で作る協議会を作り適切な運営に努めている。木更津第一小学校については施設・設備のメンテナンス等の範囲においてPFI会社が管理を行っている。

4 PFI方式導入による事業の評価

現在、両施設ともにPFI方式導入にかかる大きな課題はない。木更津市では学校給食はセンター方式と自校方式の併用により実施されている。今後はセンター方式による整備となることが予測されており、その場合にはPFI方式等民間活力を導入した方式を検討することとされている。

III 視察研修を終えて（まとめ）

木更津市では早くから学校給食センター事業にPFI方式を導入されており、特段の問題もなく一定の評価を得るものとなっている。また、学校給食センター事業と関連事業を一体的にPFI方式の導入を図ることにより、行政の支出を抑え、効率的な事業運営を行っておられた。本市において、中学校給食の開始に伴い、新たな給食センターの整備が予定されている。新しい給食センターにおいても高品質の給食サービスが提供でき、かつ効率的な整備・運営が求められる。そのためにもPFI方式等の民間活力を十分に活かした手法による整備・運営することも検討する必要がある。

IV 研修資料

別添のとおり



▲木更津第一小学校

草政会 行政視察活動報告書

報告者：草津市議会会派草政会

小野 元嗣

日時 平成30年7月20日（金）
視察先 東京都世田谷区 世田谷若者総合支援センター
視察目的 世田谷区の子ども・若者支援について
参加者 棚橋幸男 木村辰巳 中村孝蔵 瀬川裕海 奥村次一
西田剛 中嶋昭雄 小野元嗣 永井信雄 山元宏和
横江政則 中島美徳 遠藤覚

世田谷区総合支援センターでは、一般就労になじまない若者を対象に就労に向けた準備や仕事体験などの支援、また、様々な理由で社会との接点を持たず、ひきこもりなどの生きづらさを抱えた若者の支援などを支援する目的とした施設であり、施設を積極的に若者の支援に取り組んでおられます。

草津市におきましては、不登校児については教育委員会が関係機関と連携して対応しており、ひきこもりについては福祉に関する総合相談窓口にて対応を行っておられますが、子ども・若者支援という観点で一体的に取り組んでいく必要があると考えおられ、世田谷区のおおむね18歳～39歳までを対象と若者支援の取り組みを調査研究させて頂きました。

① 世田谷区の子ども・若者支援の特徴について

ひきこもり等の様々な理由から社会との接点を持たず、社会的自立に向けた一歩を踏み出すことができないなどの生きづらさを抱えた若者に対して面談や活動ルームでのプログラム、セミナーを実施し、就労支援機関である「せたがや若者サポートステーション」と一体的に『世田谷若者総合支援センター』として若者の自立や就職を総合的にサポートします。

② 世田谷若者総合支援センターの機能と役割について

「世田谷若者総合支援センター」は、一般就労になじまない若者を対象に、就労に向けた準備、仕事体験等の支援を目的とした「せたがや若者サポートステーション」、様々な理由から社会との接点を持たず、社会的自立に向けた一歩を踏み出すことができない、ひきこもりなどの生きづらさを抱えた若者の支援を目的とする「メルクマールせたがや」を合わせた施設です。

③ 世田谷区若者総合支援センター内のメルクマールせたがやとは

メルクマールせたがや3つのCHA

- ・CHANCE きっかけ作り 不登校や引きこもり等で行きづらさを抱えた若者やそのご家族を対象に、変化に向けた一歩を踏み出す・動き出すきっかけを作るための、支援を行います。
- ・CHALLENGE 挑戦・動き出し 活動やプログラムを通じて、新たなものに挑戦していくことをサポートします。また、利用を重ねることで自信を持って自立に向かえるように応援していきます。
- ・CHANNEL つながり 他の支援機関と繋がり、連携します。人とのつながり、関係性が生まれることによりメルクマールせたがやを利用された方が再び社会とつながることができるようサポートします。

以上の三つのCHAに基づき、1人1人が自分のペースで一歩を踏み出し、“メルクマールに来て安心できる居場所ができた”と思えるよう取り組んでいきます。

メルクマールせたがやの利用の流れ 個別相談を受けることから始まります。個別相談 臨床心理士や精神保健福祉士が、今までの経緯を伺いながら、ご本人らしい一歩を一緒に考えていきます。

ご本人だけでなく保護者の方も利用することができます。居場所 社会参加のきっかけ作りの為に通える場所です。「居場所スタッフ」のサポートの中で、おしゃべり、ゲーム、スポーツなどの活動を行います。※イベント等のスケジュールはお問合せ下さい。

グループ活動 人との関係を紡ぎ直すプログラムやグループワークを行います。※各グループ活動のスケジュールはお問合せ下さい。 家族セミナー・家族会 ご本人との付き合い方を講座形式で振り返りをしたり、ご家族同士の交流の場を設けています。開催日：月1回土曜日 ※お電話にて予約可 関係機関との連携 ご本人やご家族のニーズに沿った機関をご紹介します、連携を取った支援を行います。

Q&A メルクマールせたがやについてよくあるご質問にお答えします。

Q1 メルクマールせたがやではどんなことをしていますか？

A1 メルクマールせたがやでは、悩みを相談する個別相談と、家以外に通える第一歩としての「居場所」の提供や、家族セミナー、家族会などを開催しています。また、他に適した支援機関があれば、適宜紹介し、連携を取っていきます。

Q2 どんな人が利用できますか？

A2 中高生世代～39歳までの世田谷区民の方と、そのご家族の方が利用対象者となります。

Q3 利用料金は？

A3 基本無料ですので、お気軽にお越し下さい。ただし、「居場所」の活動によっては自己負担をお願いするものがあります。

Q4 スタッフにはどんな人がいますか？

A4 スタッフは臨床心理士・精神保健福祉士等の専門家です。特に不登校・ひきこもりに関して実績と経験が豊富な人達です。

Q5 何をしたらいいのかわからないのですが

A5 何かのきっかけとして、お気軽にお越し下さい。これからについて、ぜひ一緒に考えて行きたいと思います。

(アクセス) 地下鉄田園都市線／世田谷線「三軒茶屋駅」より徒歩15分 東急バス 渋31,32,33系統「自衛隊中央病院入口」より徒歩5分 〒154-0001 東京都世田谷区池尻2-4-5 IID 世田谷ものづくり学校内3階 TEL: 03-3414-7867 FAX: 03-6453-4750

開所時間 月～土曜日 10:00～18:00 (祝日・年末年始除く)
MERKMAL SETAGAYA MELKMAL (メルクマール) は、目印や道しるべなどを意味するドイツ語です。1人1人が進む道を迷わない道しるべのような場になりたいという想いを込めていますとのことです。

④ 今後の課題と展望

- ・10代の若者への早期支援・早期介入
- ・出口支援を見据えた若者総合支援センター内の有機的連携
- ・ひきこもり当事者と早期につながるためのアウトリーチ
- ・新規利用者の開拓につながる取り組み
- ・若者に直接届く広報活動

⑤ 視察を終えて (所感)

今回の視察を通じて、現代社会の新しい課題の一つに「若者の居場所づくり」の重要性と必要性を学ばせて頂きました。世田谷区の人口90万人の内、8～9千人の若者ひきこもりなどの支援が必要な対象者がいるとのことでした。

草津市においても、草津市の特性を踏まえた独自の「若者支援」事業の検討が必要であるが、まずは若者支援に必要な支援内容とニーズ調査など研究を行うことが重要です。



なつせた!
情熱せたがや、始めました。

若者による若者へのSNS情報発信に向けたモニターを募集します

若者自身が、若者らしい視点で集めた地域の情報を、いつでも、どこでも、手軽に知ってもらえるよう、TwitterなどのSNSを使って発信していく予定です。本発信開始の前に、皆さんのご意見を聴かせて下さい。

モニター希望の方は、右記QRコードからTwitter、またはFacebookアカウント「情熱せたがや、始めました。」を登録して下さい。

※Twitterで発信した情報はFacebookやLINEと連動してお届けします。

本館周辺に向けたつし期間中に、ツイートによるアンケートなどでぜひ感想を聞かせてください。

Facebook インタビュー記事等、より詳しい情報を発信します。

Twitter 若者が集めた地域の面白・役立つ情報を発信します。

LINE@ 地域イベントで利用できるクーポンや特典などの情報を発信します。

【つながる×はたらく】をキーワードに発信します
「青少年交流センターや児童館のイベント情報」などの身近な地域での活動や交流のできる「つながる」視点の情報と、「社会人になるまで知っておきたい就職クニック」や「職場一日体験談」などの「はたらく」視点の情報を発信していきます。

情報を一緒に発信していく若者を募集しています。興味のある方はお問い合わせ下さい。

☎若者支援担当課☎5432-2585☎5432-3050